

●明治大学●
水曜会会報

第4号

発行所 明治大学水曜会
編集・発行人 平川 清
発行日 2001年11月22日
印刷所 株式会社盈進社
☎ 03(3262)3471



会長挨拶

水曜会会長 平川 清



暑さ厳しき夏が過ぎて、晩秋の折り、水曜会会員皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび平成13年6月24日の総会において第5代会長に拝命されました平川清（昭和41年3月建築学科卒業）でございます。諸先輩のおられる中で、伝統ある水曜会会長に拝命されましたことを大変光栄に存じます。

皆様には、21世紀という新世紀を、新たな気持ちで、希望を持って迎えられた事と存じますが、今日、小泉内閣により遂行されようとしておる政治・経済改革（構造改革）の中で、我々の携わる建設業会も明確な将来像が見えにくく、不透明感が漂う現状くなっているのではないでしょうか。

ここ数ヶ月、世界に目を向ければ、アメリカにおいて同時多発テロが発生し、6,000人以上の人達の命が失われました。その報復として、アメリカによるテロおよびタリバン（アフガニスタン）への空爆がなされており、日本もその報復の渦に巻き込まれようとしています。こうした世界情勢を受け、世界的な経済市場も長期に亘る景気低迷のパターンに突入しようとしております。国内では、千葉県にて狂牛病が発見され、牛肉食品関係に大きな影響が出ております。また、新宿で発生した雑居ビル火災事故は建築設備に携わる者としてより身近な問題であり、再発への防止対策が速やかに進められる事が望まれます。

さて、会の運営にあたりましては、前富田会長の意志を引継ぎ、会則の目的「本会は会員相互の親睦を図り、建築設備及び建築環境に関する学術技術の進歩の発展に寄与することを目的とする」にありま

すように、まず、「会員相互の親睦」を掲げ、運営部会・研究部会・広報部会の3部会を軸に、特に若手会員を中心とした会員相互の交流が密になるような企画をしていきたいと思っております。

なお、会員皆様の部会などに対するご意見およびご提案がありましたら事務局へのご投稿をお待ち致しております。

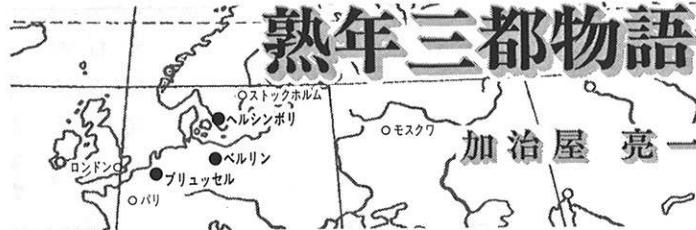
今年から、総会の開催時に本会と学生との絆を強くし、本会を理解して貰う意味から、学生の研究論文の内から優秀な作品を推薦し、各研究室毎に学術奨励賞として、「水曜会賞」を、授与することに致しました。学生諸君の勉学への励みになれば幸いです。

今後も、顧問の先生を始め諸先輩の方々のご指導を得ながら水曜会会員皆様の交流を中心に、昨年開催されました「明治大学建築学科創設50周年祭」などの記念事業への参加や、毎年開催されます明治大学ホームカミングデーへの参加など大学側との直接的な交流を縦軸に、建築学科卒業生による明建会や建設と関連ある交友会（建設・不動産明大会支部および全国紫明クラブ）などとの相互交流を横軸とした活動を視野に入れ、本会の運営を推進していきたいと思っております。

今年は、明治大学創立120周年事業として、B地区（現在の5、6、7号館の場所）に新校舎（約25,000m²）の建設が着工される記念すべき年でもあります。明治大学の大きいなる発展と水曜会会員皆様のご活躍とご健勝を祈念致しますと共に顧問の先生を始め諸先輩の方々、会員皆様のより一層のご指導とご支援、ご協力を賜りますようにお願い申し上げます。

以上

2001年10月16日



今夏、森永エンジニアリングの小仲井さん(明大・機械'75年卒)のお誘いでスウェーデン・ヘルシンボリ、ベルギー・ブリュッセル、ドイツ・ベルリンの3都市を訪ねることができた。ヘルシンボリは市庁舎をはじめとする古い町並みや石畳道に中世の趣の残る港町である。今回の旅の本来の目的はサーモパネル社工場を視察することであった。サーモパネル社の製品はよく見知っているものであったが、外気取り入れ口に温水ヒーターを組み込んだものなどは北欧と日本との気候の大いなる違いを感じた。会社訪問前に海外でのゴルフ初プレーを楽しんだが、お楽しみの結果は、ヘルシンボリのゴルフ場に地獄を見たであった。夜はスウェーデン(ヘルシンボリ港)とデンマーク(コペンハーゲン港)を行き来する国際間カーフェリー船上レストランでのパーティーで適当な船の揺れに強いお酒の乾杯(スコーネ)の繰り返しと美味な海鮮料理で2往復する間にすっかり出来上がってしまった。ベルギー・ブリュッセルは首都でありEU本部が置かれている街である。旧市街地のファサードは新築改築に際して旧来のデザインを踏襲しており、街並み保存・街景観保存に努めている。室内は機能・内装を含めて近代化しているとのことであった。現代的デザインのEU関係の新築建物とはエリアが違うこともあるが良いバランスが取れていた。現在、EU関係建物は建設中のものや、改修中のものが多数見られた。昼食に旧市街の下町?で頂いたムール貝(地中海料理、和名:紫貝)と何百種もあるベルギー名物の地ビールは堪えられない美味しさであった。ブリュッセル郊外の放熱器のメーカーASCO社のキャッチコピーはBeautiful Warmthで曲線を用いた多種のデザインの製品を製造していた。(注文製作にも応ずることでした。)昼食にご馳走になったイタリアンパスタもなかなかのものでした。ドイツ・ベルリンは壁崩壊(1989年)後の建設ラッシュの真只中、いたる所にクレーンが

見られ、日本のバブル期の状況を思い起こす状況であった。壁崩壊の象徴であるブランデンブルク門周辺は、アメリカ大使館の新築工事、ノーマン・フォスター設計のガラスのドームをもつ連邦議会議事堂、首相官邸、議員会館は工事中である。旧ポツダム広場に立つソニー・セン

ター(2000年秋竣工)や磯崎新やレンゾ・ピアノの設計による建物があるダイムラー・ベンツ・シティ(1998年10月竣工)はホテル・劇場・カジノ・住宅及びショッピングセンターのある複合エリアとなつてお、一見の価値がある。東西統一以来の建設工事は今が盛りと見受けられた。とにかく楽しい1週間であった。何から何までお世話になった森永エンジニアリングの皆さん、ご同行して頂いた松田平田の五十嵐信継さん、INAの横田宗卓さん、今回の旅行をお譲り頂いた石本建築事務所の富田隆造前会長に感謝します。

新 役 員 の 紹 介

6月27日(水曜日)に開催された総会において役員の改選が行われ、下表のとおり承認されましたので紹介いたします。

任期は2003年3月までです。よろしくお願いします。

役職	氏名	勤務先	卒業年	研究室
顧問	松尾 陽	明治大学		
	坂上 恭助	明治大学	1974	篠原
	加治屋 亮一	明治大学		貝塚
	北島 敬造	エース設計事務所	1956	篠原
	佐藤 善昭	横河建築設計事務所	1957	篠原
	清水 正巳	エース設計事務所	1961	篠原
会長	富田 隆造	石本建築事務所	1966	篠原
	平川 清	ピーエーシー	1966	篠原
	山下 幸人	ピーエーシー環境モード	1973	篠原
	須藤 俊彦	新菱冷熱工業	1975	貝塚
	宮沢 宏次	森村設計	1963	篠原
	中山 志メ松	日本設計	1965	篠原
理事	馬場 久幸	伊藤喜三郎建築研究所	1966	篠原
	谷村 正道	レックサービス	1970	篠原
	嘉治 憲夫	鹿島建設	1971	篠原
	吉本 隆	横河建築設計事務所	1975	篠原
	遠山 衛	ピーエーシー	1976	篠原
	尾崎 幸平	建雄社	1977	貝塚
	中村 昌行	東京ガス都市開発	1978	篠原
	坪 洋明	ダイダン	1978	貝塚
	平松 哲也	久米設計	1979	貝塚
	吉田 孝之	野村不動産	1983	坂上
	上篠 英昭	須賀工業	1984	篠原
	千代田 浩	石本建築事務所	1987	貝塚
監査役	中谷 豊	I.N.A.新建築研究所	1992	貝塚
	大堀 健	竹中工務店	1995	加治屋
	飯田 朋弘		1961	篠原
事務局長	横田 輝正	横河建築設計事務所	1964	篠原
	森下 剛	明治大学	1982	坂上

建築環境工学研究室

教授 松尾 陽



M 2 城川 稔

M 1 井村修二 鈴木唯弘
ゼミ生 大沢亜紗子 酒井寛人
鈴掛寛之 関根実希
橋本理恵 前田洋介
松尾 徹 菊地洋平
斎藤庸介 西田真紀子
三好正人 森憲司

2000年度卒論テーマ

1. 屋根一体型太陽光発電パネルの住宅への適用に関する研究

寄せ棟屋根一体型太陽光発電パネルの発電特性・発電効率・売買電力の把握と解析を行った。

2. 市街地気候に関する研究

建築の高層化・高密度化が、温湿度に与える影響を現象面から検証した。

3. 集合住宅の温湿度・空気質環境に関する研究

高密度住宅では居住者が排出する湿気や建材等が放散するホルムアルデヒドが蓄積されやすいので、集合住宅の計画換気にについて基礎的に検討した。

4. 明治大学リバティタワーのエネルギー消費量構成と総合的な省エネルギー対策の検討

省エネや地球環境への配慮という観点から様々な工夫が盛り込まれたリバティタワーの総合的な省エネルギー性能・環境配慮性能を検討した。



坂上研究室

教授 坂上恭助

本年度の新修士・ゼミ生は、次のとおりです。

M 1 森山員征

ゼミ生 荒川陽平 小原涼子
木村彩子 佐藤俊光
須永覚 高橋英二
中田麻美 西尾功
兵藤典弘



研究室で遂行している主な研究として、次が挙げられます。

- ① 給水温度の推定手法：リバティタワーでの実測データを使用、神大岩本研と共に
- ② 集合住宅の使用水量の調査：会員の杉山さんの団地で実測、東洋大と共に
- ③ 住宅の使用湯量の調査：高齢者世帯が主、東大鎌田研と共に
- ④ トップの性能評価手法：東大の実験装置を使用、鎌田研と共に
- ⑤ 低層集合住宅の排水性能の評価：特殊排水継手メーカーの実験タワーを使用
- ⑥ ディスポーザー排水システムの搬送性能の評価：都市公団・メーカーの実験タワー使用
- ⑦ ビルのゴミ処理システムの評価：設計事務所と共にケーススタディー
- ⑧ 在宅介護支援システムの検討：介護空間・設備・機器の評価と提案
- ⑨ ミャンマーの住宅環境・水使用の実態調査：現地での実測、広大村川研と共に

建築環境デザイン研究室

専任講師 加治屋亮一

建築環境デザイン研究室では、主として室内の空気と熱の環境の数値予測に関する研究を行っている。このような予測法や評価法を確立する事により、建築内

外の環境の快適性やエネルギー効率などの評価や向上に資することが期待される。

当研究室は、この分野の先駆者である(故)渡辺要先生の名著にちなんで、建築計画原論という名称で、1972年以来、(故)貝塚正光先生が継承してきた流れをくんでおり、1996年4月加治屋亮一先生により創設され、現在に至っている。

本年度の当研究室におけるゼミナール生は13名、大学院生は2名となっており、主に気流・温度性状の詳細な把握を目的として模型・可視化実験と数値計算との比較、床暖房室内の温熱環境の数値予測、エコスクールにおける環境に対する意識調査、建築設備における省エネルギーに関する研究等を行っている。



水曜会賞の紹介

および

平成12年度選考報告

富田 隆造

2000年度建築環境・設備系（水曜会関係）卒業論文の出題数は松尾研4編（卒論生7名）、坂上研4編（卒論生8名）、加治屋研10編（卒論生14名）であった。先生方に1研究室1編を推薦して頂き、水曜会賞として以下の3編（受賞者数4名）に決定した。

松尾研：野中壕、吉野美奈子「集合住宅の温湿度・空気質環境計画に関する研究」、高層集合住宅（35階）における温湿度環境・自然換気による空気質環境改善効果についての実測とシミュレーションによる検討。

坂上研：小藤知武「高置水槽温の予測手法に関する研究」、明治大学リバティタワーの給水システムを対象にして、受水槽給水温から高置水槽水温を予測する手法についての研究。

加治屋研：高柳慶子「エコスクールにおける環境に対する意識調査-アンケート調査より-」川崎市内の公立小中高等学校全185校、全国にあるエコスクール6校を対象としたアンケート調査の解析。

研究会実行委員会報告

昨年は9月27日に豊洲マンション・台場DHC・フジテレビ本社ビルの見学会を実施しました。豊洲に建設中の高層(36階)マンション(キャナルワーフタワー)は都合により現場内は見られませんでしたが、戸田建設さんより「ゼロミッション」等の説明を受け地球環境を考慮して物作りをしていることがわかりました。次に、東京臨海副都心にある地域冷暖房施設(台場プラント)を見学後、フジテレビ本社ビルに行きました。普段見学することができないスタジオ内やフォーラム、建物の中で最も象徴的な球体展望室なども見せてもらいました。最後に、一般人が入れないレストランDAIBAで美しい夜景を見ながら親睦会を開き、良い思いでとなりました。今回は11名と小人数の参加でしたが、今後も話題のスポットを探して見学会を計画していきたいと思っていますので奮ってご参加ください。

(嘉治)

第4回 水曜会ゴルフコンペ開催 “常田氏3連続優勝”

昨年の平成12年11月18日(土曜日)秋深まる茨城県の岩間カントリークラブで晴天の中15名(5組)の参加者で、第4回水曜会ゴルフコンペを行いました。

競技は例年どおりWペリア方式で行い、常田さんの3年連続優勝、茂木さんの2連続準優勝となりました。

優勝 常田俊夫(1961卒 ミスズ建設)
準優勝 茂木 晃(1961卒 協和建設工業)
3位 吉田孝之(1983卒 野村不動産)
ベストグロ 常田俊夫 グロス84(45, 46)



毎年開催する予定です。参加希望者は下記に連絡願います。

連絡先
(株)横河建築設計事務所 横田輝正、吉本隆
TEL03-3492-7441 FAX03-3492-2187

平成12年度水曜会会計報告書

(期間: 平成12年4月1日～平成13年3月31日)

事務局長 森 下 剛

[収入の部]

(1) 前年度繰越金	1,883,600円
(2) 会費(126名)	379,010円
(3) 銀行利息	302円
合計	2,262,912円

[支出の部]

(1) 水曜会賞経費	95,000円
(2) 平成12年度会報作成経費	260,531円
(3) 会議費	28,820円
(4) 通信費・雑費	1,100円
(5) 次年度繰越金	1,877,461円
合計	2,262,912円

以上

上記に相違無きことを認める。

監査役 横田 輝 正

監査役 飯田 朋 弘

平成12年度 事業報告

4月12日 第1回理事会 14名

7月1日 第2回理事会 14名

総会(出席者20名 委任者81名 計101名にて成立)

講演会、懇親会は同日開催の建築学科創設50周年祭への参加に替える。

9月27日 見学会(豊洲マンション、台場DHC、フジテレビ)

11月18日 親睦会(第4回ゴルフコンペ 岩間CC)

2月22日 第3回理事会 11名

平成13年度水曜会会計予算

(期間: 平成13年4月1日～平成14年3月31日)

[収入の部]

(1) 前年度繰越金	1,877,461円
(2) 会費(130人×2,930円)	380,900円
(3) 銀行利息	300円
合計	2,258,661円

[支出の部]

(1) 水曜会賞経費	93,000円
(2) 平成13年度会報作成経費	230,000円
(3) 会議費(5回)	35,000円
(4) 通信費・雑費(総会往復葉書代含む)	90,000円
(5) 次年度繰越金	1,810,661円
合計	2,258,662円

会費と名簿作成費納入のお願い

本年度は会報第4号と同時に新しい会員名簿を送付させていただきました。

平成13年版会員名簿の代金は3,000円です。年会費と名簿代金をあわせると6,000円になります。ご負担が昨年度の二倍となってしまいます。本会の安定的運営のためとご理解をお願い申し上げます。

前回の名簿改定では作成経費105万円、振込額92万円のため、13万円の赤字となりました。ぜひとも代金のお振込みをお願いいたします。

なお、誠に勝手ではありますが振込用紙は年会費と名簿代金を加えた金額6,000円のものを同封させていただきました。12月中にお振込みいただければ幸いに存じます。

また、誠にお手数ですが振込用紙の通信欄に卒業年月、研究室名を必ずご記入ください。

◎名簿代金 3,000円

◎年会費

正会員(卒業生) 3,000円

会友 3,000円

正会員(在学生) 2,000円

◎振込先

口座番号 00190-0-413602

加入者名 明治大学水曜会

◎問合せ 事務局長 森 下

明治大学施設課 ☎03-3296-4121

総会の報告

今年度の総会は、6月27日に文京区の文京シビックセンターにおいて下記のとおり行われました。

第1部 講演会

神奈川大学 岩本静男先生(1984貝塚研卒)に講演していただきました。



第2部 総会

出席者60名(内学生24名)委任状177名合計237名をもって正会員約900名の10分の1以上にて総会は成立し、以下の

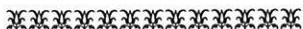
議題がすべて承認されました。

- ① 平成12年度事業報告及び会計報告
- ② 役員改選による新役員及び三役
- ③ 新顧問（富田前会長を顧問に）
- ④ 平成13年度事業計画及び予算（案）

第3部 懇親会



新会長の挨拶で始まり、新役員の紹介、今年度新設された水曜会賞の授与等が行われ、例年のとおり校歌の齊唱を持ってお開きとなりました。



平成13年度事業計画及び経過報告

副会長 山下 幸人

今年度も前年同様に、次の3つの部会を中心に活動します。

会員皆様方には各部会が主催する行事への積極的な参加をお願いすると共に、さらなるご協力をお願いいたします。

なお、今年度の理事会は年5回程度（2～3ヶ月に一度）を開催の予定です。

◎運営部会（部会長：中山 委員：宮沢、馬場、谷村、吉本、上藤、横田）
会員相互の交流と親睦を図ります。

*会員名簿の改定（会報と同封で会員の皆様に郵送）。

*11月にゴルフコンペを予定（11月17日）。

*6月に親睦会を開催（総会後に開催）。

◎研究部会（部会長：山下 委員：嘉治、中村、平松、吉田、大堀）
講演会・見学会などを企画します。

*9月に技術見学会を開催（9月26日に開催、埼玉県営スタジアム、簡保健康増進センター・ラフト埼玉の2か所を見学）。



*6月に講演会を実施（総会後に神奈川大学、岩本先生をお招きして開催）。

◎広報部会（部会長：須藤 委員：遠山、尾崎、坪、千代田、中谷）

年一回会報を発行し、会員の情報交換を図ります。

*10月に会報を発行予定。

小泉首相より先駆けての改革

1977篠原研卒 石川照芳



小泉首相は「聖域無き構造改革」、「痛み無くして、改革無し！」と経済再生への目標を掲げています。長期的な視野に立ち、立ち行かぬ現行のシステム改革、無駄な歳出の見直し、莫大な赤字を垂れ流している国債からの脱却等、大鉛を振るう決死の覚悟が感じられます。その小泉首相のお膝元であり、又ニューヨーク同時テロ事件後、米軍の基地としてもマスコミに取り上げられる機会が増えた「横須賀市」ですが、首相やテロに係る事項はマスコミに譲り、一步先んじて改革を進めている横須賀市を紹介しましょう。

全国地方自治体のトップランナーとなるべく、横須賀市は今年の4月に中核都市となりました。環境ISOなども既に承認取得済みです。市長在任三期目で脂も乗り、とても先進的な沢田市長は、「構造改革」の旗手である小泉首相と競い合っている訳ではありませんが、横須賀市役所は様々な改革に着手し、実行してきました。

例えば最近の札幌市の例を見るまでもなく、談合が当たり前の入札制度を見直し、元来の競争原理を呼び戻す入札に改めました。「どのように？」マスコミでも紹介されたのでご存知の方もあるでしょうが、指名型入札では指名者を増やし、その指名者も事前に漏れないようにする。参加者が判る現況を極力避ける。つまり相談相手が特定出来ず、相談を持ち掛けることが出来なければ、自ずと自由競争に成らざるを得ないという訳です。希望参加型入札では、横須賀市役所のHPに入札物件を掲示して、広く応札者を募ります。勿論、事前に市役所へ登録しなけ

れば入札参加出来ません。つまり電子入札の実行です。マレーシアのマハティール首相はスーパーコリダーの提唱者です。そのマレーシアの大蔵が訪日した際にも、電子入札の状況を視察する為、当市役所へ見学に訪れていました。その他、今迄の随意契約を見直し、極力入札へ転換を図るなど、平成11年度より段階的に導入し、推進してきました。平成12年度では入札物件だけで実に30億円以上（横須賀市全体予算の約2%以上）の年度予算が削減出来ました。更に、本年度10月から完全電子入札（日本初のシステムで、入札物件掲示後、人に頼らず落札者に至るまでの決定、入札結果の公表などの完全自動化）に移行し、業者同士の接触の機会が益々減っていきます。

この制度改革に伴い、不満を抱いている市内業者も数多く存在します。この改革で不利益を被った業者達（所謂、反対勢力）が大人しく黙っていた訳ではありません。が、横須賀市では市会議員らが、「特定業者の利益誘導や、圧力、口利き等、斡旋利得の行為は一切行わない」ことを議員決議で表明しています。ですから、国政でも時々ニュースで取り上げられる陳情や、議員等の行政側への圧力といった切り札も禁じ手となりました。そこで地元では、関係組合より質問状を市長に提出、回答を求めました。「現行の落札金額が予算の50～60%台で、適正な請負業務が遂行できるのか？」市長からの回答が直ぐには出されませんでしたが、「請負業務の価格は、予算の85%を下限とし、それ未満を失格とする。」と最低価格が設けられ、一定の歯止めが掛けられました。しかし、何故85%かの根拠たる理由は説明さ

れませんでした。この回答後、平成12年9月中旬直ぐに施行され、以降関係業者達は一応の落ちつきを取り戻しました。が、時が経つにつれ、入札物件を取れなかった業者が落札し始めると、関係者の間では「予定価格が事前に漏れている!!」との噂が飛び交いました。その疑惑解消の為、市役所は平成13年度より「予算金額の公表」の策で応じました。何とすることでしょう！予算の公表など誰も想像だにすることも出来ない離れ業です。ですが、これでは全く競争になりません。殆どの業者の札が予算の85%に集中するからです。そこで、入札日当日、実行予算としての歩切り幅の数字を籤引宜しく参加者に引いて貰い、予算金額に乗じて最終価格を決定します。市役所にかけられた嫌疑を、「情報公開(?)」のキーワードで解消し、同一価格に集中することも避けました。言い替えるならば、平成13年度からの落札は籤引を引き当てるが如くとなりました。地元の業者の中には積算ソフトをリース契約で利用している会社があります。が、契約の途中解約が出来ないと嘆いています。何故って、ものはや見積りの必要が無く、それは無用の長物と化したからです。

請負に対し、委託業務は最低価格の設定が法律に抵触するとの説明で下限がありません。そうなると、委託業務では数多くの馬鹿な業者が競い合い、過去の実績の価格の1/10で落札した物件や、予算の1/3で地元設計事務所が落札した物件(設計業務も委託業務の範疇)が有ります。しかし、これら採算割れの落札価格は一体何の意味があるのでしょうか？業者が仕事を取れば取る程赤字を出し、血を流し続けるのです。「こんな金額は意味なのだ。」と、落札者自ら学習することになるのです！業者がとともに業務を遂行すれば採算割れになるし、それを避けるには誤魔化す以外方法が無いのです。誤魔化しが罷り通つて良い道理がありません。不正を排除するには、しっかりと監視する体制が必要です。が、残念なことに現時点では完全と言えません。発注者側の意識と体制は、制度改革前のままで整備されているとは言えず、改革もこれでは片手落ちです。発注業務の担当する関係部署では、業者を指導する責任的立場や、監視、監督する能力が求められ、延いては自分の評価に反映します。ですから、必要書類が一応揃っていれば契約金支払いを進め、不

正も隠蔽されてしまう場合も有ります。ならば、誤魔化す積りなら落札した方が得です。目を転じて、国レベルでも税金の無駄使いを例に上げると暇が無いほど其処彼処に認められる現在、元来お役人本質そのものが生温い、仕方がないのだと諦めるほかないでしょう。だが、厳しい改革を行政が強いるのなら、それに伴う義務と責任を完全に履行する以外、改革が成功とするとは思えません。つまり、業者が大儲けせずともサバイバル可能な必要最小価格を維持する為には、発注者側の業務の監視と支払いに対する厳しいチェックが不可欠なのです。それが整わない限り、第二、第三の狡猾な、あるいは馬鹿な業者が出現し続けるのです。正にここ2、3年はこのような状況が続き、仕事が取れても地獄、取れなくても地獄の不毛な状況です。市井の多くの零細企業では、運転資金も自転車操業です。仕事が無ければ資金も底を尽き、倒産が待っています。対岸の火事宜しく市役所がただ手を拱いているなら、業者自ら身を守る為に必要悪と言われた「談合」へと後戻りするか、「痛い、痛い！」と叫び血を流しつつ、出血多量で波間に沈み溺死するかの二者択一しかないのでしょう。

ここで述べた横須賀市の改革の例は、トップダウンによる市長自らの強い意思とリーダーシップにて、市庁全体が一丸となり推し進めた結果です。将来を見据え、改革を進めたこと、とても評価に値します。「痛い」からと改革に逆行するなどは、もはや改悪以外にはなりません。更により良く前進するには、前述にて指摘した様ろにされている点を考慮し、不正を許さぬ制度を早く確立して貰いたいと願っています。当市に係るミクロは無論のこと、小泉首相によるマクロ(国全体)の改革が進めば、更に厳しい社会が待っているでしょう。しかし、厳しい経済の下でも、快進撃を続ける某有名アパレル産業の社訓「泳げぬものは溺れてしまえ！」は、自らを救うべく己の力で努力、対応すれば必ず将来がある可能性を示唆しています。だから、これから改革を恐れず、怯まず、難局を乗り越え、新たな希望、素晴らしい日本への再生と将来に夢を持って今を頑張りましょう。

切り線

会員皆様方には各部会が主催する見学会、研修会、ゴルフコンペなどの行事への積極的な参加をお願いします。
つきましては、ご希望の会員の方にはファックスで開催のご案内を送付いたします。左記の事項をご記入の上、事務局までファックスにてお送りください。
お名前()
連絡先(ファックス番号)
会社名()
卒業年度()
明治大学理工学部建築学科 加治屋研究室
ファックス番号 044-934-7381

アンケートのお願い

- ・見学会・研修会の案内を希望する
- ・ゴルフコンペの案内を希望する
- その他連絡事項がありましたら、ご記入ください。